

提案型の福祉体験、その成果は

北宇
治中

個室化ニーズ、人手難など指摘

宇治市立北宇治中学校(槇島町島前、坂井雄二校長、521人)で16日、3年生の福祉体験活動発表会が開かれ、体験を通して感じた課題やその解決に向けた提案について生徒たちが発表した。

3人に1人が高齢を迎え、5人に1人は75歳以上になる25年後の日本を支える中学生たち自身に福祉の現状や今後の課題を理解してもらい、老人福祉、障害福祉、児童福祉の職場体験を通して自分た

ちで何ができるかを考え、振り返り学習で見つけた課題や解決策を提案し、チームごとに発表してもらおうという取り組み。



4月～7月まで1学期中に20時間にわたる「次世代の担い手育成事業」と銘打った3年生の福祉体験プログラムを展開。福祉の現状と課題を考える座学や体験学習、福祉現場での職場体験、体験後の振り返り学習、専門家を迎えた課題発見や解決策の提案——などの取り組みを積み上げてきた。

た施設の課題とその解決策などについて発表した。

このうち老人ホームを訪れた生徒は施設維持に経費がかかり、個室が作れないにも関わらず入居したくてもできない待機者が多く、施設で働く人の給料が安く、人手不足にあること——などを指摘。課題解決として競輪や競馬などの賭け事のお金を福祉に回すべき、タバコを税金を上げてそのお金を福祉に回すべきだ——などと提案。

「この体験を将来に生かし、社会に貢献したい」などと今後の抱負の一端を述べた。

体育館での発表会ではケアハウス、老人ホーム、知的障害者福祉施設、保育園などで職場体験を積んだ生徒の代表がそれぞれの訪問先の概要をパワーポイントで紹介。

【岡本幸一】写真が課題解決に向けた提案型の福祉体験の成果を述べる生徒(北宇治中)】

それぞれの施設でスタッフが工夫していること、苦労していること、やりがいを感じることに、自分たちが感じ

た施設を述べた。